

TICO

の挑戦

▷2

ザンビア 心臓病医療支援

首都ルサカで暮らす 比較的女性に多く、人種 クリスティーナ・チシ ヤさん(18)は幼い頃から、動悸や息切れの症状を抱えていた。原因は、心臓の左右の心房を隔てる障壁に生まれつき穴が開いている「心房中隔欠損」(ASD)。血液が正常に循環せず、心不全の症状で3回入院したことがある。「長い間苦しんでいる思いをしてきた」と話す。

助かるはずの命

一方、ザンビアでは、クラランス院長によると、U THにはイタリヤから医師チームが、現状では渡航費もかかき10例ほどASD手術を行う。このほか、米

施術医師不在育成へ

1人程度が罹患しているが、ASDの手術の国ロータリークラブうになると、その費用とされる。その3分が育病院(U TH)のチケさせている。いづれザンビアで長年医療あるものの、手術で穴をふさげば回復する。(42)は「ASDをはじめ、患者数に見合った人・TICO(吉野川



ASD患者を診察するザンビア人医師たち。海外の援助に頼らず自国の患者を救えるよう、手術技術の習得を目指すザンビア大付属教育病院

市)は、こうした現状が、現地医師を育てる画を立て、昨年から座学や人間に近いアタの心臓を使った模擬手術を重ねてきた。その1人、エマニエル・リ(35)は「外国の支援に頼るだけでは不十分だということに、私たちは気付いている。この国のパイオニアになりたい」と力を込めた。

TICOのメンバーもまた、先進国なら当たり前のようにならざる命が危険にさらされる現状を変えたいと意気込む。ただ初めての手術成功は、決して順調な道ではなかった。(乾菜里子)